

「水が少ないと、困るよホント。」

私の父がよく言う言葉だ。

父は川をゴムボートで下るレジャースポーツのツアー会社を経営している。だから、父の言う「水」は川の水量のことだ。

川の水量が少ないと、川底の岩にボートを擦ってしまったら、進むスピードが落ちたりするため、川の水量がツアーの質を決める。

私は水について考えるというと、「節水」や「水を大切に」などの日頃から学校で教わっている「言葉」だけが浮かぶ。水を大切にすることと自分のくらしがどのように結びついているのかは、考えたことがない。

だが、父は、

「水は大切な商売道具だ。水がなくなったら仕事ができなくなる。」という。

もし、何日も何日も雨が降らなくて、水が手に入りにくくなったとしたら、私はとりあえず飲み水の入手だけを考える。

そんな私に父は、

「そうやってから焦っても遅いと思うぞ。だから、そうならない様にシャワーを出しっぱなしにするなよ。」と言った。

私と同じように、多くの人は水を意識して生活していない。それ故に水に対する理解や関心を持っていない。もし、水が手に入りにくくなっても、心の底では楽観的に考えてしまっただろう。

隣の家のおじさんは、農業をして暮らしている。私は彼に「水はおじさんにとってどんなもの」なのかと聞いたことがある。その時彼は、

「野菜が作れるのも、水のおかげだから大事なもんだ。不足しねえよう

に大切に使わないとな。」

そう答えた。

私は、父とおじさんの言葉で気が付いたことがある。彼らは、水を大切にすることと自分達が生きることが深くつながっていると、理解しているのだ。本当に水が手に入らなくなったら、という想像をして危機感をもって生活している。

私も日頃から水を使い過ぎないように心掛けてはいるが、水に対して危機感をもったことはない。だから、私は彼らの言葉にどきっとした。

例えば、私達が何かの原因で水不足に直面したとする。そのとき、きっと私達は「大変だ。どうにかしなきゃ。」という気持ちになる。しかし、多くの人は本当に水が入手不可能になるまで心の底から危ないと思えないのではないか。

私は、社会全体の水に対する危機感のなさは、人々の水への理解や関心の低さが原因だと思う。父やおじさんは、仕事という形で水と関わっているために「本当に手に入らなくならないように、日頃から水を大切にす」という考えを持っていたのだ。

彼らのように、私達一人一人が水に対する関心を持って生活していくことこそ、水を守っていく最善の方法なのではないだろうか。

私は自分が生きていることと、水がどのように関わっているのか、水が手に入らなくなったらどうなってしまうのかを考えて、水への理解を深めていきたいと思う。

水とはたらくこと、水と生きていくこと、そのどれも水がなくなったらできないことだ。

昨日の朝、顔を洗ったとき私は水を出しっぱなしにしていた。

だが今日、顔を洗っているときにふと「今の出しっぱなしが、水不足につながったらどうしよう。」という考えが頭を過ぎり、私は無意識に水を止めていた。

一人一人の想像力と小さな行動が、水の未来をより良い方向に導いていく大きな力になる。私は、そう信じている。